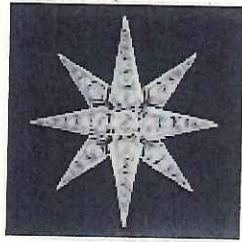


美術館に行こう！

エリザベート展



エリザベートは「シシィ」という愛称で国民から愛された、オーストリアの皇妃です。彼女の美貌はヨーロッパの宮廷一といわれていました。身長も172センチと高く、ウエスト50センチ、体重50kgという驚異の体型の持ち主でした。今回のエリザベート展では皇妃エリザベートや、彼女とカゾクの間で真珠だけではなく、エリザベート妃が実際に使用していたドレスやダイヤの髪飾りも展示されています。ちなみに、星型をしたダイヤの髪飾りは日本初公開だそうです！！

エリザベートのダイエット

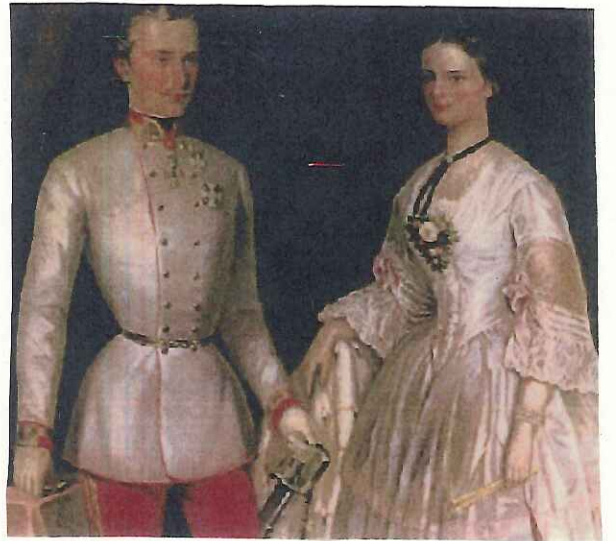
ここで、エリザベートの紹介で、ダイエット法を紹介します！！

● 果汁療法

オレンジやぶどう、りんごなどのジュースを飲む方法。エリザベートはなんと、1日の食事をオレンジ3個分で済ませる事もあつたんだとか！！かなり愛飲していたようで、その飲みぶりといつたら、皇帝「ジュースの飲みすぎで胃酸過多になつてしまうのではないかと心配するほど！！

● 肉ジュース療法

この療法は、エリザベートが行なつたダイエット法の中で最も奇妙な方法です。どのようなものかというところ、子牛の生肉をプレスして搾り出した血を直接飲むという方法です。エリザベートはこれを「肉ジュース」と呼んで1867年から愛飲していました。プレス機はわざわざフランスから取り寄せたようです。実際1890年ころのパリでも牛の生血が薬と考へられていたことがありました。アミノ酸やビタミン、ミネラルなどが含まれていたため病人にいいと考へられていたのです。しかし、これによつてエリザベートは胃カタルや胃けいれんなどの障害を引き起こしたといわれています。現代医学でもウイルス感染の点でよくないこととされています。また、この生肉は美肌効果があるとも信じていたため、エリザベートはベック7にも使用していたそうです。



大エルミタージュ美術館展

花かざりに囲まれた幼子キリストと

洗礼者ヨハネ

この絵の中央には、幼子イエスに花冠を載せている洗礼者ヨハネが描かれています。そして、その絵の枠（カルトゥーシュ）に「バラ」「アカンサスモリス」「アザミ」「ヒイラギ」「ブラックベリー」「ローズヒップ」などが花かざりとして描かれています。

よく考へてみるとトゲがあつたり、ギザギザした葉のものばかりの植物が描かれています。実は、これはキリストの将来の運命の苦難を予告するという意味が描かれているのだそうです。また、中央の枠の中の幼子達の絵は、「トマス・ウィレボルト・ボスハルト」が描き、美しい植物のある周囲を「ダニエル・セールス」が描いているいけば、ゴッロポリーニョの作品なのだそうです。

これらの花のすばらしさと、将来重いうんめいを背負うであろう2人の幼児のかゆいらしさに心をうばわれました。

